

臨地実習

基礎看護学実習Ⅰ

単
位
数

1

時
間
数

45

Ⅰ年次 7月～10月開講

目的

看護実践の基礎となる基礎看護技術を習得する。

【看護見学実習】

目標

1. 看護師がどのようなことをしているかを知る。
2. 患者がどのような入院生活を送っているかを知る。

【基礎看護学実習Ⅰ】

目標

1. 患者の生活過程を観察する。
2. 基礎的な日常生活援助技術を実施する。
3. 看護者としての基本的姿勢を身につける。
4. 患者の生活・診療を支援する施設を知る。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の履修にあたっては、以下の科目履修が要件となる。
「看護学概論」「日常生活の援助技術演習（実技）」

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

基礎看護学実習 2

単
位
数

2

時
間
数

90

2 年次 10 月開講

目的

看護実践の基礎となる基礎看護技術を習得する。

目標

1. よい人間関係が成立するためのコミュニケーションを図ることができる。
2. 健康障害をもつ対象の生活過程について観察できる。
3. 得られた情報を分析し、看護の必要性を決定できる。
4. 対象のもつ問題を解決に導くための援助の方法を考える。
5. 対象の反応を確認しながら必要な援助を実施する。
6. 実施した援助を評価・修正する。
7. 医療チームの一員であることを自覚し責任を持った行動をとることができる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

「基礎看護学実習Ⅰ」「診療に伴う援助技術演習（実技）」「看護過程の展開」

留意事項

実習方法・評価方法が変更となる場合があります。

地域・在宅看護論実習Ⅰ	単 位 数	Ⅰ	時 間 数	30
Ⅰ年次 3月 開講				
<p>目的 地域で生活している人々及び療養している人と家族への看護を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している対象を理解する。 2. 地域で生活している対象の生活環境を理解する。 3. 地域で生活している対象が活用できるサービスを理解する。 <p>*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照</p>				

地域・在宅看護論実習 2

単
位
数

2

時
間
数

90

3年次 5月～9月 開講

目的

地域で生活している人々及び療養している人と家族への看護を学ぶ。

【地域包括支援実習】

目標

1. 地域包括支援センター介護予防事業、総合相談、支援事業などの概要を知る。
2. 地域包括ケアシステムと医療機関、及び職種間の連携について知る。

【地域生活支援実習】

目標

1. 施設で生活している対象を理解する。
2. 施設で生活している対象の自立に向けた援助を理解する。
3. 施設における保健・医療・福祉のチームメンバーの役割と連携の必要性を理解する。
4. 高齢者在宅サービスの目的と事業の実際を理解する。

【訪問看護ステーション実習】

目標

1. 在宅で療養している人とその家族・介護者を理解する。
2. 在宅で療養している人とその家族・介護者が療養生活を継続するための援助に参加できる。
3. 訪問対象の社会資源の活用状況や関係諸機関との連携について理解する。

【地域・外来看護実習】

目標

1. 外来通院をしながら生活している対象の背景を知る。
2. 外来部門における看護師の役割と継続看護の実際を知る。
3. 地域包括ケアシステムにおける各施設の役割と事業の実際を知る。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護論実習1

成人・老年看護学実習 Ⅰ

単
位
数

2

時
間
数

90

Ⅰ年次 Ⅰ月～Ⅲ月 開講

目的

成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期・老年期にある対象の特徴が理解できる。
 - 1) 患者の発達段階をふまえ、身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々について理解できる。
2. 成人期・老年期にある対象の看護の必要性を決定することができる。
 - 1) 加齢・生活背景・生活習慣が健康に及ぼす影響が理解できる。
 - 2) 患者の疾患・検査・治療・入院が身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響が理解できる。
3. 成人期・老年期にある対象の健康状態に応じた援助が実施・評価できる。
 - 1) 患者の疾患・検査・治療・入院にともなう心身の変化に合わせた援助が実施できる。
 - 2) 患者の価値観・社会背景・生活習慣を考慮した援助が実施できる。
 - 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - 4) 家族および支える人々への援助がわかる。
 - 5) 実施した援助を評価できる。
4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
 - 1) 対象に必要な社会資源を考えることができる。
 - 2) 多職種との連絡調整方法を知る。
 - 3) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。
「成人看護学概論」「老年看護学概論」「基礎看護学実習2」

評価方法

実習目標の達成度を実習内容・実習態度・出席・実習記録によって総合的に評価する。

成人・老年看護学実習 2

単
位
数

2

時
間
数

90

1 年次 1 月～3 月 開講

目的

成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期・老年期にある対象の特徴が理解できる。
 - 1) 患者の発達段階をふまえ、身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々について理解できる。
2. 成人期・老年期にある対象の看護の必要性を決定することができる。
 - 1) 加齢・生活背景・生活習慣が健康に及ぼす影響が理解できる。
 - 2) 患者の疾患・検査・治療・入院が身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響が理解できる。
3. 成人期・老年期にある対象の健康状態に応じた援助が実施・評価できる。
 - 1) 患者の疾患・検査・治療・入院にともなう心身の変化に合わせた援助が実施できる。
 - 2) 患者の価値観・社会背景・生活習慣を考慮した援助が実施できる。
 - 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - 4) 家族および支える人々への援助がわかる。
 - 5) 実施した援助を評価できる。
4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
 - 1) 対象に必要な社会資源を考えることができる。
 - 2) 多職種との連絡調整方法を知る。
 - 3) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。
「成人看護学概論」「老年看護学概論」「基礎看護学実習 2」

評価方法

実習目標の達成度を実習内容・実習態度・出席・実習記録によって総合的に評価する。

成人・老年看護学実習 3

単
位
数

2

時
間
数

90

3年次 5月～9月 開講

目的

成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期・老年期にある対象を総合的に理解することができる。
 - 1) 患者の発達段階をふまえ、身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々について理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【周手術期にある対象の看護】

- 1) 周手術期にある患者を理解し、看護の必要性を決定できる。
 - (1) 麻酔や手術侵襲が全身に及ぼす影響を理解し、身体的側面が理解できる。
 - (2) 周手術期にある対象の精神的・社会的側面が理解できる。
- 2) 周手術期にある患者の段階に応じた援助が実施・評価できる。
 - (1) 手術に向けて心身の状態を整えるための援助ができる。
 - (2) 入室時の援助ができる。
 - (3) 手術中の援助ができる。
 - (4) 術後の回復を促すための援助ができる。
 - (5) 状態に応じて日常生活を整えるための援助ができる。
 - (6) 社会復帰に向けた援助ができる。
- 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - (1) 患者が疾患を理解し、自ら治療を選択・決定できるように支援できる。
- 4) 家族および支える人々への援助ができる。
 - (1) 家族および支える人々の理解・協力を得るための援助ができる。

【急性期にある対象の看護】

- 1) 急性期にある患者を理解し、看護の必要性を決定できる。
 - (1) 急激な生体機能の変化による全身への影響が理解できる。
- 2) 急性期にある患者の段階に応じた援助が実施・評価できる。
 - (1) 生命の維持・回復のための援助ができる。
 - (2) 合併症予防のための援助ができる。
 - (3) 苦痛を緩和するための援助ができる。
 - (4) 不安を緩和するための援助ができる。
 - (5) 日常生活を整えるための援助ができる。
- 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - (1) 患者が疾患を理解し、自ら治療を選択・決定できるように支援できる。
- 4) 家族および支える人々への援助ができる。
 - (1) 家族および支える人々の理解・協力を得るための援助ができる。

3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。

- 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、多職種との連携・調整ができる。
- 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。
- 3) 社会資源の活用を考えることができる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

成人・老年看護学実習 3

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

「成人看護学概論」「老年看護学概論」「基礎看護学実習 2」

評価方法

実習目標の達成度を実習内容・実習態度・出席・実習記録によって総合的に評価する。

成人・老年看護学実習 4

単
位
数

2

時
間
数

90

3年次 5月～9月開講

目的

成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期・老年期にある対象を総合的に理解することができる。
 - 1) 患者の発達段階をふまえ、身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々について理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【慢性に経過する健康障害のある対象の看護】

- 1) 慢性期にある患者を理解し、看護の必要性を決定できる。
 - (1) 患者の健康障害の種類・段階・症状・治療が理解できる。
 - (2) 患者の生活背景・生活習慣と健康障害の関連が理解できる。
 - (3) 患者が健康障害についてどのように受け止めているか理解できる。
- 2) 慢性期にある患者の段階に応じた援助が実施・評価できる。
 - (1) 病状の維持・回復を目指してセルフケア能力を高める援助が実施できる。
 - (2) セルフケアを継続するための援助が実施できる。
- 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - (1) 患者が疾患を理解し、自ら治療を選択・決定できるように支援できる。
- 4) 家族および支える人々への援助ができる。
 - (1) 家族および支える人々の理解・協力を得るための援助ができる。

【リハビリテーションを必要とする対象の看護】

- 1) リハビリ期にある患者を理解し、看護の必要性を決定できる。
 - (1) 患者の機能障害の種類と程度、疼痛・苦痛の程度、日常生活への影響が理解できる。
 - (2) 患者が疾患や障害についてどのように受け止めているか理解できる。
 - (3) 社会的役割の変化について理解できる。
- 2) リハビリ期にある患者の段階に応じた援助が実施・評価できる。
 - (1) 障害受容の段階に応じた援助ができる。
 - (2) 機能障害の回復のための援助ができる。
 - (3) ADLの再獲得のための援助ができる。
 - (4) 機能障害に伴う日常生活の変化に応じた援助ができる。
 - (5) 廃用症候群予防のための援助ができる。
 - (6) 事故防止のための援助ができる。
 - (7) 退院後の生活に合わせた援助ができる。
- 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - (1) 患者が疾患を理解し、自ら治療を選択・決定できるように支援できる。
- 4) 家族および支える人々への援助ができる。
 - (1) 家族および支える人々の理解・協力を得るための援助ができる。

成人・老年看護学実習 4

【終末期にある対象の看護】

- 1) 終末期にある患者を理解し、看護の必要性を決定できる。
 - (1) 患者の疾病や病状の変化および治療の副作用によって起きる症状が理解できる。
 - (2) 患者の苦痛を身体的・精神的・社会的・霊的 (spiritual) な側面から理解できる。
 - 2) 終末期にある患者の段階に応じた援助が実施・評価できる。
 - (1) 疼痛・苦痛・不安の緩和に向けた援助ができる。
 - (2) 患者のQOLを考慮した援助ができる。
 - 3) 患者の意思決定を支える援助が実施できる。
 - (1) 患者が疾患を理解し、自ら治療を選択・決定できるように支援できる。
 - 4) 家族および支える人々への援助ができる。
 - (1) 家族および支える人々の状況がわかる。
 - (2) 家族および支える人々が望んでいることを知る。
 - (3) 家族および支える人々がケアに参加できるように援助する。
 - (4) 予期悲嘆に対する援助ができる。
 - 5) 人間の生命の尊厳と自己の死生観について考える。
 - (1) 対象への援助を通して、生命の尊厳や人の生と死について考えられる。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
- 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、多職種との連携・調整ができる。
 - 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。
 - 3) 社会資源の活用を考えることができる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。
「成人看護学概論」「老年看護学概論」「基礎看護学実習2」

留意事項

実習目標の達成度を実習内容・実習態度・出席・実習記録によって総合的に評価する。

小児看護学実習

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 11月～3月・3年次 5月～9月 開講

目的

小児期にある対象の特徴を理解し、対象の成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

【保育園実習】

目標

1. 健康な乳幼児の成長発達の段階をとらえることができる。
2. 乳幼児の安全を守るための、保育環境を理解することができる。
3. 乳幼児の生活において、年齢に応じた遊びの内容を観察できる。
4. 乳幼児の個々にあった日常生活を整える保育を行うことができる。
5. 乳幼児の健康を守るための保育を理解することができる。
6. 家族とどのように連携をとりながら、乳幼児の保育をすすめているかを理解することができる。

【病棟実習】

目標

1. 健康を障害された子どもの特徴が理解できる。
2. 健康を障害された子どもの健康を回復するための援助ができる。
3. 健康を障害された子どもをもつ家族への援助ができる。
4. 健康を障害された子どもと、家族を支える保健・医療・福祉の連携について知り、看護の役割を理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

保育園実習の受講にあたっては以下の科目の履修が要件となる。

「小児看護学概論」「基礎看護学実習2」

病棟実習の受講にあたっては、保育園実習出席及び以下の科目履修が要件となる。

「基礎看護学実習2」「小児看護学概論」

母性看護学実習

単
位
数

2

時
間
数

90

2年次 1月～3月・3年次 5月～9月開講

目的

周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

目標

1. 妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 妊娠による生理的な経過と心理・社会的特徴を理解する。
 - 2) 妊娠期の基本的な援助がわかる。
 - 3) 妊婦に必要な保健指導の実際を理解する。
2. 分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 分娩の進行に伴う産婦の生理的な経過と心理・社会的状態の変化を理解する。
 - 2) 安全安楽な出産に導くための産婦とその家族への援助を理解する。
 - 3) 産婦やその家族とのコミュニケーションを通して生命の尊さを考えることができる。
3. 産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を学ぶ。
 - 1) 褥婦の生理的变化と心理・社会的特徴について理解する。
 - 2) 褥婦の健康生活の維持と健康回復への援助ができる。
4. 新生児の生理的特徴を理解し、子宮外生活への適応についての援助を学ぶ。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。
「基礎看護学実習2」「母性看護学概論」

精神看護学実習	単 位 数	2	時 間 数	90
2年次 1月～3月・3年次 5月～9月開講				
<p>目的 精神障害のある対象を理解し、対象の状態に応じた看護実践を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のある対象が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象と関わることができる。 2) 対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 精神障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、生活を整える援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の精神障害と現れている症状を関連づけて理解できる。 2) 対象が受けている治療について、症状と関連づけて理解できる。 3) 対象に現れている症状が日常生活に及ぼす影響がわかる。 4) 対象の生活行動の意味を考え、日常生活を整えることができる。 3. 対象との関わりを通して、患者—看護師関係の理解を深めることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護者のとる態度が対象に及ぼす影響を理解できる。 2) 対象との関わりを通して自己を振り返り、看護者としての自己理解を深める。 4. 精神医療の現状と看護の役割が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の安全を守るための病室環境の調整や病棟管理のあり方がわかる。 2) 対象の社会復帰における看護師の役割を考えることができる。 <p>*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照</p>				
<p>学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。 「基礎看護学実習2」「精神看護学概論」</p>				

統合実習

単
位
数

3

時
間
数

135

3年次 11月開講

目的

既習の学習を統合し、看護の実践力を養う。

目標

1. 複数の対象の援助を優先度と時間管理を考慮して実施できる。
2. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる。
3. 看護管理の実際が理解できる。
4. 様々な対象の状況にあわせた看護技術を習得できる。
5. 既習の学習を振り返り、自己の課題を明確にする。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

成人・老年看護学実習1・2・3・4、地域・在宅看護論実習2、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習

公益社団法人 東京慈恵会
慈恵看護専門学校

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号
TEL 03-5400-1284 FAX 03-5400-1220
